

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①SSHの取組を充実させ、文理に関わらない問題解決能力の育成を図る。 ②令和4年度から年次進行で始まる新教育課程に向けて、生徒に最適な教育課程の編成を行う。	①ICTを活用して学習内容の質を高めるとともに、SSHの取り組みにより、発展的な学習を目指す。 ②新教育課程の実施に当たり、すべての教員が「指導と評価の一体化」に関する理解を深め、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。	①各教科で、授業改善に取り組み、ICTを効果的に活用した学習成果を共有して活用する。 ②定期試験の作問の際の担当者ごとの検討、また評価方法の検討・職員研修等を通じて、授業の改善・評価の改善について共通理解を図り、指導の改善に繋げていく。	①ICTを活用して授業内容の理解を深めることができたか。教科内で学習の効果・成果を共有できたか。教科をこえて学習効果・成果を共有できたか。 ②学習評価の改善により組織的に取り組めたか。「指導と評価の一体化」をふまえて授業改善・評価の改善ができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒主体の生徒会活動を継続し、社会に貢献できる人材の育成を図る。 ②前4年間で構築した教育相談体制をさらに発展させる。	①コロナ禍で縮小した行事や生徒会活動の復元と見直しを図る。生徒の主体的な活動をサポートする。 ②支援が必要な生徒の情報を職員全体で共有し、すべての生徒が健康で安全な学校生活を送れる体制を整える。	①感染に対する動向に的確に対応できるよう組織的に取り組み、職員間、生徒間で十分に協議し安全な行事運営を心掛ける。 ②支援が必要な生徒の情報を常に共有し、全職員で対応できる体制を整える。	①健康的で安全な行事が実施されたか。生徒の主体性を支援することができたか。 ②一人の生徒に対し多くの職員がかかわることによって、問題を抱える生徒の課題解決を支援することができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①学習活動やSSHの取組をリンクさせ、大学入学者選抜改革に対応した進路支援体制を構築する。 ②自分の将来を見据え、妥協のない進路選択ができるよう、個別指導を充実する。	①生徒の個々の目標に応じた進路指導を実現するための、サポート体制を構築する。 ②変わりつつある大学入学者選抜制度に、対応できる体制を実現する。	①模擬試験の結果の分析方法、適切なアドバイスを教員1人1人ができるように、その方法を共有するための勉強会・研究会を充実させる。 ②大学説明会での情報を共有する体制を作るとともに、教員自身が情報の発信者となるよう、ガイドラインを整える。	①各種模擬試験が提供している分析システムを、各教員が使いこなし、面談等に活用できたか。 ②大学説明会の内容を、キャリア支援Gの教員以外でも発信することができたか。					
4	地域等との協働	①家庭や地域、同窓会等の協働を進め、開かれた学校作りの更なる発展を進める。 ②SSHの活動において他の教育機関や地域との連携を進め、コンソーシアムの構築を進める。	①若い世代に共感されるような同窓会の活動の実現に、同窓会と協働して取り組む。また、家庭や地域に開かれた学校づくりの実績を着実に積み重ねていく。 ②SSH指定Ⅱ期1年目の取組について、地域社会等にPRしていく。	①同窓会活動への理解を深めるために協働して活動の改善点を検討していく。 ②学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて、地域の小中学校と連携した実績やSSHの取組について発信する。	①同窓会との相互理解を通じた改善点の共有ができたか。 ②学校行事における情報発信の実績と、地域の小中学生との連携実績及び、SSHの活動状況をホームページに掲載した記事数。					
5	学校管理 学校運営	①働き方改革に向けて、コミュニケーションツールの活用など業務の効率化を図る。 ②社会から新たに要求される様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。 ③生徒主体の学校行事等をさらに発展させ、課題発見・解決能力の育成を図る。	①BYOD環境の拡充を行うとともに、Teams等の活用を推進する。 ②各種の研修を通じて、教職員としてのICT活用スキルを高める。 ③学校行事の際に、ICT機器を積極的に活用していく。	①アクセスポイントの設置を円滑に行い、各教室のWi-Fi環境を強固にする。また、Teams等の活用を推進し、校務に支障が生じない環境作りを行う。 ②様々な研修会を通して、人権や教育相談といった視点から、これまでの教育活動を見直す。 ③文化祭や陸上競技大会等で、TeamsやForms等を活用し、ペーパーレス化や円滑な連絡事項を図っていく。	①各教室に充実したWi-Fi環境が整っているか。クラウドサービスの活用で校務が円滑に進んでいるか。 ②研修を通じて、職員の共通理解が深まったか。 ③TeamsやForms等を活用し、連絡やアンケートがスムーズに行われたか。					